

会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 平成21年度 第13回
開催日時	平成21年11月11日（水曜日） 午後7時から9時まで
開催場所	田無庁舎1階第102会議室
出席者	委員：池田委員、虎頭委員、西山委員、青木委員、富田委員、高木委員、 角田委員、中村委員、北條委員、渡辺委員 欠席：大野委員、寺内委員 事務局：飯島課長、藤巻係長、貫井主任
議題	1 第12回西東京市男女平等参画推進委員会会議録の確認について 2 平成20年度西東京市男女平等参画推進計画各課実績評価確定について 3 西東京市第1次男女平等参画推進計画「5ヶ年総括評価」まとめの確定について 4 西東京市第2次男女平等参画推進計画の評価方法について 5 その他
会議資料の名称	1 第12回西東京市男女平等参画推進委員会会議録 2 西東京市第1次男女平等参画推進計画実績評価報告書（案） 3 各区市男女平等条例
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>開会</p> <p>委員長： 第13回西東京市男女平等参画推進委員会会議を始める。大野委員欠席、寺内委員欠席との連絡があった。</p> <p>事務局： 本日、平成20年度西東京市男女平等参画推進計画各課実績評価及び、第1次男女平等参画推進計画「5ヶ年総評価」について確定していただきたい。また、今後評価の方法について皆様からのご意見もあると思いますので、次年度以降の評価の仕方について議論していただきたい。男女平等参画条例については、区市の条例（抜粋）及び計画策定状況の一覧を用意しましたので、次回以降の検討材料にしていきたい。</p> <p>1 第12回西東京市男女平等参画推進委員会会議録の確認について 委員長： 第12回会議録は承認された。</p>	

2 平成20年度西東京市男女平等参画推進計画各課実績評価確定について

委員長：

平成20年度各課実績評価の確定を諮りたいので確認をお願いします。

事務局：

前回宿題の新規0歳児保育についてはご指摘のとおりです。二つ目の企画政策課の1、2の記号については、まだ確認が取れていないため、次回委員会までに確認を取る。

委員：

子育て支援課で「病児保育については、子育て支援計画（後期計画）の中において検討することとしており、現在実施していない。」について、「C評価、評価できない」としているが、まったく取り組まなかったらD評価だが、「検討することとしており」なのでC評価とした。

委員長：

前回会議で確認したが、以前は空欄が沢山あったためまったくの空欄はD評価としたが、今年度は殆ど空欄が無く未実施、未達成等はC評価になっている。

3 西東京市第1次男女平等参画推進計画「5ヶ年総括評価」まとめの確定について

委員長：

「5ヶ年総括評価」まとめについて各グループで確認していただきたい。

委員：

家庭生活の事業数が提出したのと違う。

事務局：

数字についてはまだ精査していない。

委員長：

正確な数字をお願いしたい。

事務局：

正確な数字については、製本する前に訂正し各委員にメールで送りますので、確認して訂正等ある場合には返信していただく。

委員：

人権のタイトルの5、人権を守る男女平で終わっているのを等を入れる。

委員：

算用数字の部分にアンダーラインが入っているが、まちづくりに関してはアンダーラインが入っていない。

委員長：

アンダーラインは全て取ることにする。

委員：

裏表紙の目次について、はじめにの次に領域別評価があって、これからの課題がNo.1からNo.6の所と並行しているのので、これからの課題ははじめにと同じ扱いなので前に出していただく。資料の2番目ですが平成20年度男女平等参画推進計画実績報告とあるが、目次は男女平等参画推進計画20年度各課実績報告となっているので統一したほうが良い。

事務局：

平成20年度男女平等参画推進計画各課実績報告とする。

委員長：

今までの報告書は、西東京市男女平等参画推進委員会の下に委員長名が入っているので、今回も入れていただきたい。

事務局：

了承

事務局：

学びの2枚目の「ミニシンポジウムの開催」のところの5年の5が漢数字になっているので算用数字にする。

委員長：

形式的な部分については事務局に一任する。

委員：

数字について過去5年遡って修正した結果を含めて、学びは若干の文言の訂正をしたい。

委員長：

今日訂正が入りましたので、先に事務局に出していただく。

委員：

まちづくりのところで、未記入事業欄に文字が入る事が改善または前進した事業となっているが、このこと自体を評価して良いのか。

委員：

学びでも未記入事業が無くなった事は大きな前進であると表示がある。

委員：

あえて項目としてあげるのはいかがでしょうか、前文で触れるほうが良いのではないかと。

委員：

いままで無記入だった欄に記入があり前進と判断した。

委員：

各領域で同じことが起きているのだから、全ての領域で書くのではないか。

委員長：

領域によって若干の解釈の違いによるのではないか。

委員：

基準が違いすぎるのはどうか。D評価というのは不備があればDで、完全に何か書ききってあればC評価と思っていた。

委員：

課題として書くとするば、40%を今後維持するとか担当課としてはその位しか書きようがなかったのでは。担当課としては一応目標は達成していて今後も維持しますという事だと思うが、あえて書かなかったのでは。

委員：

そういう推測は立つが、他の課が書いている所があるので、これこそ統一するべきでだ。

委員：

達成している課で、課題とか事業評価として特になしと書いているものもある。

委員長：

好意的に見れば特になしも、何も書かないで斜線でもそれほど質的には変わらない。

委員：

しかし、表のように一覧になると斜線と言葉では突出して見える。同じであるなら担当課に確認したらどうか。

委員：

委員の気持ちも分かるが、5年間のまとめでそれぞれのグループで担当して評価したということで個性が出て良いと思うが、見る側からしたら、委員会としての5年間のまとめとして見るので、委員の疑問も分かる。学び、職場、人権は全て前文に入れているので、改善に入れなくて前文に入れたらどうか。

委員長：

期待したい事業に入っている2も合わせて前文に入れたらどうか。

委員：

いつごろまでに修正したら良いか。

委員長：
1週間位で修正して送っていただきたい。

委員：
表の下に注意書きがあるが、他のグループにも当てはまるがどうするか。

委員長：
注意書きは取ることにする。

委員：
A、B、C、Dの説明がしてあるが、Dの下に空欄の説明を入れたらどうか。

事務局：
A、B、C、Dの下に注として「各領域の事業数等変化については、組織改正等によるものである」の様な但し書きを入れてはどうか。

委員：
平成16年、平成17年の空欄の意味は分からないが、人権の空欄に関しては所管が変わったからなので、平成16年、平成17年の空欄の意味合いとは若干違う。

事務局：
確認して統一できるのであれば、Dの後に注として入れることとし、できなければ注意書きの2はこのまま残す。

委員長：
確認します。事業数の変化は組織改正のためあえて入れない。

事務局：
17年度から評価が確立され空欄がDという位置付けになったとすれば、これから事業数を正しい数字に置き換える作業もあるので、コメントにあわせて空欄のところをDに移行したらどうか。

委員長：
空欄のものについてはD評価として、人権の空欄は注意書きを残す。

委員：
まちづくりのところだけ点数化しているが、たとえば平成17年度の空欄2がDに移行すると点数が変わり前進というのも見えなくなるのでは。

委員長：
まちづくりに関しては16年度の事業数が少ないため、もう一度検討しなおすことにする。他になければ変更点の確認として、学び、まちづくりの訂正文を事務局に提出す

る。事務局に過去にさかのぼり数字の点検及び空欄をDに変更していただき、これをもって5カ年のまとめとして了解していただくということで宜しいか。

各委員：
了承

4 西東京市第2次男女平等参画推進計画の評価方法について

委員長：
第2次男女平等参画推進計画の評価方法についてご意見を伺いたい。

委員長：
未実施、未達成と何か書いてあれば今まではC評価だったが、空欄は再度要求し書いていただき空欄を無くしていくのはどうか。

委員：
未実施、未達成をD評価にし、執行されている部分をA、B、Cにランク付けするのは難しいと思う。

委員長：
では、未実施、未達成はCで、D評価を無くす。

委員：
報告しなさいと指示しても報告しないところも有るかもしれないので、D評価は残したほうが良い。評価方法より今までの各区分けが良いか、また記入方法が各課ばらばらなので意思統一したほうが良いのでは。

委員：
報告は課の特定の人を書くのか。

事務局：
課によっては事業を幾つも持っているので、各担当者が原案を作り係長、課長が確認していると思われる。

委員：
委員会の付ける段階は継続性があるので良いが、通常であれば各課が立てた計画に対して、数値目標があるならば数値を挙げていただいて、行政自身が執行状況を見て評価すると思うが、経過を見ていると書き方が分からない部分が見受けられ、このスタイルを続けているとある限界が来るとと思われる。行政自身が立てた計画に対して数値目標なら数値目標を上げているものに対して、行政自身が評価したものがあつた上で、委員会として客観的に行政が挙げているものを踏まえて判断するという形が良いと思う。

委員長：
担当課が数値目標を挙げられるところは数値目標を挙げて自己評価を付けるというこ

とか。

委員：

全てが数値では挙げられない。数値に馴染むものと馴染まないものがあるが、見ていると行政自身がどのように評価しているかが全く見えない。

委員長：

成果目標のところは数値化出来るもの出来ないもの、担当課の事業評価の欄。数値化できるものは達成成果が出ると客観的な評価が出来る。

委員：

数値化できないものをどうするかは、委員会側がどのようなものを求めているかを伝えないと、担当課が書きやすいものと書きづらいものが出てくると思う。

委員長：

すると、非数値化するところの事業に関して、委員会が求めるということなのか。

委員：

たとえば、ある事業を執行する時には予算の関係もあって来年度このような事業をやりましょうという計画を立て、その年度が終わって10の内7しか出来なかったというのが執行状況若しくは達成成果、それで課題というのは立てた計画が3割出来なかった、その理由は何なのかどのようにすれば良いかというのが課題であり、担当課の自己評価になる。問題なのは成果目標が非常に抽象的なものが多いのでは。

委員：

目標と成果は多用した標記だがそれが全く出来ていない。成果目標から担当課事業評価まで5項目あるが、3項目くらいで良いのではないか。一番前の抽象的なものは、例えば“学びで身につける男女平等”“男女平等の意識づくり”その上位項目の目標であって、つまり男女平等の意識づくりというのは、市民一人ひとりが男女平等について理解するというざっくりした目標だが、そして且つ下に来る市報とか小冊子などというのが目標になって、それぞれの担当課が具体的な目標を自分たちで作っていくという手順だと思う。そして何らかの雛形を委員会側から提示したほうが良い。

委員長：

今、項目が5項目あるが少しシンプルにするという意見があるが、成果目標とは成果を上げることが目標にしているということか。

委員：

成果目標というのは、男女共同参画の施策なので施策の内容に対して、このような成果を上げるための目標として掲げる。なのでそのような書きぶりになるので抽象的になると思う。

委員：

具体的に来年度は何をするのか、目標という表現が良いか悪いか別にして書いていただいて、実際に何をしたらか執行状況と達成成果を一緒にして、執行できなかったものが課題であり評価になる。

委員長：

執行状況と達成成果を一つにし、評価と課題を一つになるが、成果目標という書き方があいまいなので...

委員：

成果目標という言葉でなく別の言葉にしたらどうか。さらに書き方例を幾つか上げたらどうか。

委員：

施策達成のために具体的な目標が成果目標に通じることの一つだと思う。あまり限定すると各課の創意工夫を狭める結果になるのでは。

委員：

どんな目標を立てるかというところに創意工夫がある。目標と達成成果は目標に対して成果は連なっていないからならぬが、それが出来ていない。

委員長：

成果目標があまり抽象的だと成果目標にどこまで達成したか評価しにくいので、成果目標の下に執行状況がいきなり来るが...

委員：

学びで言う“市民一人ひとりが男女平等について理解する”をうえに吸い上げて、意識づくりの中ではあえて成果目標という言葉を使うのであれば、こういう目標のもとに以下のような事業を展開しますよというような構造になる。

委員：

言葉の問題で言えば成果目標とするから分かりにくくなるので、たとえば22年度の事業予定若しくは事業目標とすれば、来年度何をするかを各担当課で書いていただき、終わった時点ですべて出していただき、場合によっては委員会の評価としてもう少しあるのでは、もう少し広げなさいなどの様なコメントを入れるなどの方法がある。

委員：

“学びで身に付ける男女平等”のところの“男女平等の意識づくり”のところ、情報の提供発信というのは左側にすでに施策の説明とか目指すものが出ている。事業として小冊子の作成・配布があった時に、何処にどのような冊子を配るのか、あるいは、また作成は難しくても冊子を作る企画を何とか作成をする手筈を何とかありますよね。それに対してお金が付く付かないという問題がありますから、今年度作成は難しいというのが出てくるかもしれませんが、現状だと成果目標が、市民一人ひとりが男女平等について理解するとでいう事で、未実施で、しかし予算要求したという形で出てきて

いる。しかし、そういうところが抽象的で漠然としている。

委員：

基本的に目的・目標があって、具体的にどのような手法でやるという具体的な施策があって、それに対する執行状況があって今後の課題という流れが普通だと思うが、目標とか具体的な目指すべきものがあるって、その後に小冊子の配布という具体的なものがあるって、その後に目標という書き方をしているので、書くほうも書きづらいと思う。やはり目標・目的があって実際の具体的な施策があってそれに対する執行状況と今後の課題であるとか、今後の検討事項であるとか、そういう一連の流れになるような実績評価の標記に変えていった方が書くほうも書きやすいし委員も流れが見やすいと思う。第二次計画も出来上がっているなのでその流れを見えるような形に校正したほうが良いと思う。

委員：

成果目標は置いといて、その他に年次の具体的な目標を立てるということは、もう1項目増やすというイメージか。

委員長：

成果目標を何処に掲げるか、1のところに全体の柱の中での共通する目標を掲げておいて、施策の内容が来て最初のところに今年度の事業目標、何をすることが来れば成果目標の位置付けがここに来るものでなくて、今年度の課題をはっきりさせて始めた方が分かりやすいのではないかという意見が出ている。

委員：

成果目標というタイトルにはしないということか。

委員長：

何処かには必要だと思うが、この表の中にはあえて入らない。この表はあくまでも具体的な各課がやる事業目標を掲げてもらって、実際どうであったかとゆうことと評価と残された課題とした方が双方分かりやすい。

委員：

事前に推進委員会に今年度の具体的な施策の目標を出してもらうのか。

委員：

各課から報告してもらって報告書のスタイルがこのスタイルより3項目位に分けたスタイルで出していただいた方が良いのではないか。

委員：

具体的な事業はこの報告書の中に出てくるわけですね。何を計画しているかは成果が出てきた段階で分かるわけですね。

委員長：

第2次計画書の中に入っている。

委員：

各課では来年度何をするのか、そのために予算はどうするのかを報告の時に記載してもらえば良い。

委員：

今、来年度と言っているので混乱があると思うが、成果目標の欄に置き換えて書くのは、5年間を通じた事業の実施目標ですよね。単年度ごとに変える必要は無いですよね。

委員：

一つの書き方としては、長いスパンの事業の目標で来年はこの部分をやろうという2段階の書き方はありうる。

委員：

それは今年度何をするかというより、執行状況でその年度にされたことが把握できるから、それで終わるのではないか。

委員：

それで問題なのは、その年度の執行状況は分かるが、もともと何を予定していたのかが分からないと、100%達成したのか何%達成したのかが分からない。

事務局：

まとめると、所管課が年度で見るか5年で見るとは別にして、事業目標又は具体的取組できちんと書く、それから中間直後なら執行状況、成果があったら成果を具体的に書いて評価と課題を整理し、各委員が評価しコメントをするというイメージだと思う。

委員：

事業目的の具体的取組のところに、単年度でやれることと、ある程度中長期に見てやらなければならない事が出てくるので、それらを踏まえて事業目標として今年度中に単年度でやるということと、中長期でやるというものが具体的に見れば執行状況とうまく連動すれば市民側が見ても、これは単年度で事業目標として具体的な取り組みをしていて、執行状況は100%いっているとわかる。だけど1年ではなかなか難しいが翌年まで含めて考えていて今途上だということもある。そういうのが今のままだと見えてこないの、書く側の方も意識していただかないと未実施が続いてしまう。5年位猶予を見てもらえれば難しい取り組みも達成できる。

事務局：

あえて2例書いたのは、予算が伴うものと伴わないものがあるからで、事業課のアイデアで手作業で予算を使わないで達成できるものもあるし、予算だけ要求しても実行できないものもありますから、書き手としてはこういう分類の方がイメージは分かりやすい。

委員：

何を書いていいのかわからない、行政だから計画が無ければ事業が出来ないはず。

事務局：

書き方はこれで良いのかわかりませんが、この括りの方が書く側が書きやすいと思う。

委員長：

計画の5年間の射程をあえて意識するとしたら事業目標の中に書いておいて、具体的な取り組みの方が逆に単年度の具体的な課題となる。

事務局：

場合によっては単純に目標だけ書かせて年次々で具体的な計画を書いていただく。

委員：

毎年年度始めに提出していただくことになると思うが。

事務局：

現在その習慣が無いので今年度について当然無理だが、やるとしたら次年度以降、実績評価と合わせて23年度目標を出す形にしないといけないかもしれない。

委員：

手続的にそこまで煩雑なことを担当課がこなせるのかちょっと不安が残る。

委員：

具体的な次年度の取り組みを知らなくても問題ないと思うが。その年度が終わって評価する時に全部まとめて書いて貰えば良い。

委員：

そうすると担当課は出来なかったから出来ないように合わせて事業目標を書いてくるのではないか。

事務局：

実際には具体的にコメントが書いてあるので、向かう方向は何処の課もある程度はあると思いますので、そこから逸脱した事は書けませんので、そのような虚偽の申請は書きようが無いのではないか。

委員長：

第2次計画に基づいていますからこの辺は一応決まるのでは。

委員：

さらに混乱が生じると思ったのが、5年間分けて今年度の目標に対しては100%達成しましたが、全体から見たら10%だったという時は評価は低いわけだが、市民が見る時に

混乱すると思う。

委員：

評価については今年度具体的な年次計画がクリアされていれば、5%であっても1%であっても年次はOKで、5年評価は又別な評価の形で切っていけば問題は無いと思う

委員：

では1項目毎に2つ評価を与えるということか。

委員長：

2つではなくて年度の目標課題に対して評価をする。A評価が続いて5年目でB評価になることもありえる。

委員：

今まで立てている目標が低すぎると指摘されている項目があるが、A評価が続いて最後にD評価ということが起きるわけか。

委員：

委員会の評価のところで、A評価をつけても目標が低いなど指摘したらどうか。

委員：

今までの評価が変わるということか、今までは5年間に対して達成したものが100%だったのではないか。

委員：

単年度で見ていたのではないか。

委員：

単年度で立てているのは成果目標であって、執行状況5年間全体で通した内容に対してのレベルではないか。今年度私は、当課はこれだけの目標しか立ててないので、これだけ100%やりましたと書いていても、少なくともA評価は付けていない。その辺の意味合いは混沌としていた訳で、A、B、C、D評価の仕方が変わることにならないか。単年度ごとに低い目標を立ててそれをA評価にすることが可能になるのでは。

委員：

評価から見れば、Bは目標・計画・実施のいずれかの改善の余地があるというので、やはり目標が低ければ改善の余地があるのでB評価でも良いのでは。

委員：

そうするとどんどん複雑になっていくのではないか。

委員：

今2つ問題提起したと思うが、担当課がより書きやすく自分たちが状況が分かるもの

にしようかというものと、もう一つ委員がいかに評価しやすくよりアドバイスができるかという2つの話が混在している気がする。

委員：

たとえば、学びの成果目標市民一人ひとりが男女平等について理解するということが目標であったら、理解したかどうかを評価することは不可能では、同じ目標だが小冊子ではC評価なのにホームページではA評価という矛盾が出てくる。ここの成果目標はある意味この委員会でこのような目標があるから小冊子を作成して欲しいとか、ホームページを活用して欲しいとか、戻っているような気がしている。

委員長：

時間になってきましたので、5年間の長期的な事業目標と単年度の具体的な取り組みなり課題なり具体的な事業目標を掲げると良いのではないかという意見が出ていたので、次回検討することとする。

事務局：

市の中で男女平等を考える検討会があり、その下に部会を設けているので、部会を使って皆様方の議論を出す前の評価のシートを一回課長級でキャッチボールさせるとか、担当課が書いたものを他課に指摘させるとか、審議の間で部会に報告して議論していただくのも良いかと思う

委員長：

今日のところは改変する方向性は出来たと思う。次回もう一回来年度評価について継続審議をする。

次回委員会 平成22年1月12日（火曜日）午後7時～9時 イング第4会議室

次次回委員会 平成22年2月10日（火曜日）午後7時～9時 イング第4会議室

閉会